

第8回山口県総合芸術文化祭 HEART2014

平成26年10月2日[木]—10月19日[日]

今年8回目を迎えるHEART2014は、創始以来68年の歴史を誇る山口県美術展覧会を核として開催いたします。会期中は、美術館(美術)と、街(日常生活)をつなぐためのイベントを企画し、「ものづくり」とそれを通じた「コミュニケーション」の楽しさや大切さを伝えていきます。

■くぼたまさとワークショップ in 山口県美

[日 時] 10月12日(日) ①11:00~12:00
②13:30~14:30

[会 場] 山口県立美術館 講座室
[対 象] 4歳~小学生低学年と保護者
[定 員] 各回40組80名程度(要申込、先着順)

■ちびっこ工作コーナー「ダンボール工作を楽しもう！」

[日 時] 10月4日(土)~19日(日)
までの土・日・祝 10:00~15:30

[会 場] 山口県立美術館 ロビー
[参加費] 100円(材料費)
[申 込] 不要

■末永史尚ワークショップ「組み替え絵画をつくる」

[日 時] 10月11日(土) 13:30~16:00

[会 場] 中市コミュニティホール(Nac)
[定 員] 20名程度
[対 象] 高校生以上

■県美の森で遊ぼう!~親子で学ぶエコ・防災教室 第3弾~

[日 時] 10月19日(日)

・親子で学ぼう!「楽しいエコ・防災教室」
10:30~12:00
・仲間を助けよう!「キッズ・レスキュー体験」
13:00~15:00

[会 場] 山口県立美術館 中庭《県美の森》
※小雨決行。大雨の場合中止。

[対 象] 小学生と保護者
[定 員] 20組程度(申込順) ※昼食は各自持参

[講 師] 西村 亘(NPO法人 ほうべん子供冒険・防災学校 代表)

▶お申し込み方法

イベント名・参加者の氏名・年齢・住所・電話番号を記入の上、**FAX(083-925-7790)**または美術館WEBサイト[<http://www.yma-web.jp/event/>]からお申し込みください。
※記入いただいた個人情報はそれぞれのイベントに関する業務以外には使用しません。

第68回山口県美術展覧会

平成26年10月2日[木]—10月19日[日]

休 館 日 10月6日(月)

開 館 時 間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

観 覧 料 一般500(400)円 学生400(300)円 ()内は20人以上の団体料金
※70歳以上および18歳以下の方、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に在学する方等は無料。

会 場 山口県立美術館

主 催 山口県

●審査員

河崎 晃一(美術家、フリーキュレーター、甲南女子大学教授)
佐藤 時啓(写真家/美術家、東京藝術大学教授)
福永 治(広島市現代美術館長)

ジャンルの枠などの制限がなく、自由な表現の作品が魅力の山口県美展。展示室いっぱいの創作意欲あふれる作品たちと共に、会期中行われるワークショップやギャラリートーク「自作を語る」などもお楽しみください。詳しくは、県美展要項または美術館ホームページをご覧ください。

第68回山口県美術展覧会大賞受賞作品

小田善郎(美祿市)
「顔遊び1」



2014 - 2015 schedule

山口県立美術館 平成26年度下半期スケジュール

	展示室 A	展示室 B	展示室 C	展示室 D	展示室 E	展示室 F
10	7/26(土)~10/26(日) 小林和作の世界	7/26(土)~10/26(日) 香月泰男とシベリア・シリーズ1	9/30(火)~10/26(日) 栄西ゆかりの寺・狗留孫山修禪寺の絵画	10/2(木)~10/19(日) 第68回山口県美術展覧会		
11	10/30(木)~2/1(日)	10/30(木)~2/1(日)	10/30(木)~11/30(日) コレクション特別企画 テーマでくらべる 雪舟と雲谷派	休館(10/27-10/29)		
12	昭和の情景	香月泰男とシベリア・シリーズ2	みよこの日本画	12/2(火)~12/21(日)	12/6(土)~2/15(日)	
1			新春の寿ぎ	1/2(金)~2/1(日)	休館(12/22-1/1)	吉村芳生
2	2/3(火)~4/12(日)	2/3(火)~4/12(日)	白くてふわふわ	1/14(水)~1/18(日) 第67回山口県学校美術展覧会 1/28(水)~2/1(日) 山口県立大学卒業制作展 2/5(木)~2/8(日) 山口芸術短期大学卒業制作展 2/13(金)~2/15(日) 山口大学教育学部美術教育卒業・修了制作展	2/21(土)~4/12(日)	特別展 超絶技巧! 明治工芸の粋 —これぞ、明治のクールジャパン!—
3	ぶち	香月泰男とシベリア・シリーズ3	3/10(火)~4/12(日)	休館(2/19-2/20)		

Information

■休館日

月曜日(祝日・休日の場合は開館)、年末年始(1/2から開館)、展示替え期間
展示替期間 2014年10月27日(月)~29日(水)、12月22日(月)~2015年1月1日(木)、2月19日(木)~20日(金)

■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金

コレクション展: 一般300(240)円 学生200(160)円
※()内は20名以上の団体料金。
※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍する方等は無料。

特別展: 別途定めた料金



山口県立美術館
Yamaguchi Prefectural Art Museum
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790
<http://www.yma-web.jp/>

f 美術館情報をフェイスブックで紹介しています

Yamaguchi Prefectural Art Museum

122

Contents

コレクション展

特別展

超絶技巧! 明治の工芸の粋 —これぞ、明治のクールジャパン!—

コレクション特別企画

テーマでくらべる 雪舟と雲谷派

館内レポート

HEART2014

第68回 山口県美術展覧会

年間スケジュール



吉村芳生 〈365日の自画像〉(部分) 1981-90 山口県立美術館蔵

山口県立美術館ニュース「天花」

天花

TENGE

Collection

コレクション展

吉村芳生展

12/6 日—2/15 日

表紙作品解説

吉村芳生

〈365日の自画像 1981.7.24-1982.7.23〉(部分)
1981-90 鉛筆・紙(全365点) 各12.0×12.0cm
山口県立美術館蔵

吉村芳生(1950.7.24-2013.12.6)が逝ってから、はや一年が経とうとしている。遅咲きの作家だった。57歳にして、山口県美術展覧会大賞を受賞。同時に、全国的にも注目を集めるようになり、2010年、当館で「吉村芳生展—とがった鉛筆で日々をうつしつづける私」を開催した時には、45,000人ももの入場者数を記録。「さあ、これから」という矢先の死だった。

ここで紹介する作品は、〈365日の自画像〉である。31歳の誕生日から一年間、毎日欠かさず自分の顔を写真に撮り続け、その一枚一枚を克明に鉛筆で模写した365枚だ。最終的に完成したのは40歳の時。10年かかった大作である。それは、吉村が東京から広島へ、そして山口へと居を移し、何を描いていいか悩んでいた10年でもあった。一枚一枚丹念に描かれたこの作家の顔を見ながら、嫌気がさしたこともあったろうなと想像する。そして、どうしてもやめることができなかったんだろうなとも。

実は、一年にわたって毎日、自画像を描くシリーズは、これ以降、鉛筆で一度、色鉛筆で一度。そして、毎日気に入った新聞の一面に描かれたものも含め、全部で4点ある。2010年の展覧会の時、吉村さんはそのすべてを出品したいと主張し、私は、この「365日の自画像」と新聞のシリーズの2点だけにしようとして申し上げた。長らく押し問答が続き、どうしようもなくなった時、「そんなにたくさん吉村さんの顔があったら気持ち悪いじゃないですか」とつい口を滑らしてしまった。吉村さんはこの上なく不機嫌になり黙った。結局、出品は2点(でも730枚)となった。

吉村さん、いまさらですが、すいませんでした。でも、今回の展覧会でもやっぱり、私のイチオシはこの作品です。

(学芸課長 河野通孝)

山口県立美術館ニュース「天花」第122号 平成26年9月発行

編集 指定管理者サントーパブリシティセンター株式会社 発行 山口県立美術館 印刷 國報社写真印刷株式会社

特別展

超絶技巧！明治工芸の粋

2015年2月21日(土)～4月12日(日)

宝石細工のような七宝の平皿や飾り壺。極小サイズの蝶が無数に群れ飛ぶ、小ぶりの茶碗。見る角度によって異なる輝きを放つ、刺繍の絵画。命を吹き込まれたかのような、金属のいきものたち。もはや本物にしか見えない、象牙でできた野菜や果物。

近年、高度な超絶技巧に彩られた精緻きわまりない明治の工芸が、メディアでも盛んに取り上げられ熱い注目を集めています。

19世紀の後半、多くは輸出用として作られた明治の工芸は、海を渡り万国博覧会などを通じて、欧米の人々を魅了してきました。しかしその後もなお海外の美術館やコレクターが所有していたため、これまで日本国内で評価されることや、まとまって目にする機会はなく、忘れられた存在でもあったのです。

本展では、ニューヨークの骨董商で日本の印籠に出会ったことをきっかけに、村田理如氏が20数年来にわたって国内外から蒐集につとめ、現在京都・清水三年坂美術館に所蔵される作品から、選りすぐりの約160点を初めて一堂に公開します。並河靖之らの七宝、正阿弥勝義らの金工、柴田是真・白山松哉らの漆工、旭玉山・安藤緑山らの牙彫、そして京薩摩や印籠、刺繍絵画。多彩なジャンルにわたる、質・量ともに世界一の呼び声が高い「村田コレクション」の逸品を通して、精密で華麗な明治の工芸の魅力をご紹介します。

激動の時代に生み出され、現代ではもう二度と再現ができないと言われる、匠たちの驚くべき技と巧みの粋。どうぞ余すところなくお楽しみください。

- 開館時間 9:00～17:00 ※入館は16:30まで
休館日 月曜日
主催 山口県立美術館、朝日新聞社、yab山口朝日放送
協力 清水三年坂美術館
監修 山下裕二(明治学院大学教授)
企画協力 広瀬麻美(浅野研究所)
観覧料 一般1200円、学生・シニア1000円

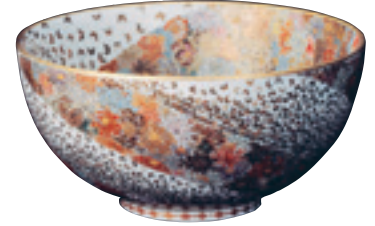
《自在》 明珍「蛇」



《七宝》 並河靖之 「花文飾り壺」



《七宝》 並河靖之 「桜蝶図平皿」



《薩摩》 敷明山 「蝶菊尽し茶碗」



《金工》 正阿弥勝義 「古瓦鳩香炉」



《牙彫》 安藤緑山 「竹の子、梅」



《刺繍絵画》 無銘 「瀑布図」

作品は全て清水三年坂美術館所蔵

コレクション特別企画

テーマでくらべる 雪舟と雲谷派

山口は、雪舟とその画風を継ぐ雲谷派ゆかりの土地です。江戸時代、雲谷派は、狩野派に次ぐ西日本最大の流派でした。長州藩お抱えの画家として、城下町・萩を拠点に、江戸時代半ばまでは広く、江戸や京都、高野山といった有名寺院など、数々のアートシーンで活躍しましたが、その実態はあまり知られていません。

このたびは、雪舟と雲谷派の魅力について、山水、花鳥、人物など、絵のテーマごとに作品を比較しながら、わかりやすく紹介します。雪舟と雲谷派の水墨画だけではなく、多彩な絵画活動を体感できる1ヶ月をどうぞお楽しみください。

- 雲谷派・仏画の代表作「五百羅漢図」(萩市・東光寺蔵)を当館で初公開
雪舟の重要文化財3点を同時公開
雪舟「四季山水図巻」高精細映像×雲谷派「山水図屏風」のコラボ企画



雲谷等甫 《五百羅漢図 白蟻の徴伏》 17-18世紀 萩市・東光寺蔵

会期 10月30日(木)～11月30日(日)
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日

観覧料 一般500円/シニア・学生400円
観覧料は無料。
※11月1日(土)～11月7日(金)の教育文化週間は「雪舟ウィーク」とし、観覧料は無料。
※シニアは70歳以上の方。
※18歳以下、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。

主催 山口県立美術館、山口新聞社、山口ケーブルビジョン
企画協力 公益財団法人毛利報公会 毛利博物館、日本大学芸術学部
特別協力 エフエム山口



雲谷等鶴 《花鳥図屏風》右隻 17-18世紀 山口県立美術館蔵

イベント

美術講座「雪舟と雲谷派—その多彩な絵画活動」
11月1日(土) 14:00～15:00
山口県立美術館 講座室
講師 福田善子(山口県立美術館 専門学芸員)
定員 80名(当日先着順) 聴講無料

雲谷派の屏風を露出展示！
江戸時代の雲谷派の屏風をガラス越しではなく、露出展示する貴重な機会です。実作品を前に、学芸員のギャラリートークも行います。
11月3日(月・祝) 9:00～17:00
山口県立美術館

雪舟研究会公開講座「雪舟と雲谷庵」
雪舟のアトリエだった「雲谷庵」をめぐる講演・シンポジウムの後、山口市天花に復元されている「雲谷庵」を現地見学します。
11月29日(土) 13:00～16:30
山口市菜香亭
定員 50名(先着順)

Yamaguchi Prefectural Art Museum



美術館カフェ “La Plume Bleue(ラ プリュム ブルー)”

カフェドミューゼラ プリュムブルーでは、職人が丁寧に作り上げたケーキをお召し上がりいただけます。秋冬のオススメは、ショコラや木の実を使用したお菓子。中でも「和菓のモンブラン」は地元、山口県国産の「がんね栗」を使用した逸品で人気上昇中です。
泉美の森を眺めながら、香り高いコーヒーや紅茶と共に是非ゆっくりとした時間を過ごしてください。(※開館日は、喫茶のみのご利用も可能です。)



県立美術館メンバーズクラブがスタート！

平成26年4月、山口県立美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館では、2館共通の県立美術館メンバーズクラブを設立いたしました。7月末日までの申込期間に、3,000名を超える皆さまにご入会いただきました。1年を通じて、2館それぞれの企画展及び普通展示(コレクション展)をお楽しみ下さい。
次年度のお申込につきましては、来年3月頃に両館ホームページなどでご案内する予定です。



両展覧会ともに大盛況に終えることができました。大変多くのお客様にご来館いただき誠にありがとうございました。平成26年度上半期企画展実施報告

国際浮世絵学会創立50周年記念 大浮世絵展 2014年5月16日(金)～7月13日(日)
開催期間:51日間 総入館者:100,055名

放浪の天才画家 山下清展 2014年7月26日(土)～9月7日(日)
開催期間:38日間 総入館者:75,351名



大浮世絵展 ロビーの様子



山下清展 学芸員によるギャラリートーク